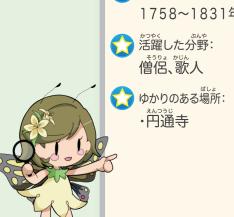
高梁川流域ゆかりの

けんじん とくしゅう



活躍した年:

1758~1831年





りょうかん ほうれき ねん いま にいがたけんいずもざき う 良寛は、宝暦8(1758)年、今の新潟県出雲崎町に生まれました。 おおもりしょう ほくえつ しだいじゅ ひとり 11才の明和5(1768)年から数年間、三峰館という大森子陽(北越の四大儒の一人 かんがくしゃ じゅく かんがく きそ まな とたたえられた漢学者)の塾で漢学の基礎を学びました。 はじ しごと しっぱい おお ざせつ けいけん りょうかん さい 名主である父の見習いとして始めた仕事に失敗し、大きな挫折を経験した良寛は18才の あんえい ねん とつぜんいえで ことも ころ べんがく そうとうしゅうこうしょうじ しゅぎょう 安永4(1775)年に突然家出し、子供の頃に勉学にはげんだ曹洞宗光昭寺で修行をしま 安永4 (1775) 年に突然家出し、子供の頃に勉学にはげんだ曹洞宗光照寺で修行をしま 

おし 安永8(1779)年、円通寺の国仙和尚が越後を教え説いてめぐり歩いていたときに光りようかんでくせんしょうがいしょうだってくせん。これでは、これである。 照寺へも立ち寄りましたが、良寛は国仙を「生涯の師」と定め、国仙とともに玉島へ移りました。以後、10数年間の厳しい修行に耐え、寛政2(1790)年、国仙より僧侶の資格を さい しょうがい もらいましたが、寺の住職となることをよしとせず、74才で生涯を終えるまで托鉢僧とし

て過ごしました。 かんしじん わかさくしゃ かんしゃく しゅ わか しゅ しゅ にほん だい 漢詩人、和歌作者としても、漢詩約450首、和歌は1400首あまりが知られ日本を代

表する詩人といわれています。

りょうかん こども じゅんしん こころ まこと ほとけ こころ こども こうりゅう か
良寛は子供の純真な心こそが誠の仏の心として、子供との交流を欠かしませんでしたが、とく てまり つね ふところ い も ある りょうかん しょうちょう しょうちん しょうちょう 自音を象徴するアイテムともいえます。

さんの人々の共感や信頼を得ることになり、今でも子どもから大人まで「良寛さん」と親し

まれ尊敬されています。